

朱印船貿易から「鎖国」へ

1 / 1

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

幕府はなぜ、さかんだった海外との貿易を制限するようになったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 朱印船貿易と日本町

海外への進出

朱印船

朱印状を持って、東南アジアなどと貿易した船。

日本町

東南アジア各地にできた、日本人が住む町。

江戸幕府は初め、海外との貿易をすすめた。徳川家康は、西日本の大名や京都・堺・長崎の商人に、海外へ渡ることを認める**朱印状**を与えた。朱印状を持つ**朱印船**は東南アジア各地へ渡り、日本からはおもに**銀**を輸出し、中国産の生糸や絹織物などを輸入した。日本には、ポルトガル・スペインのほか、新たにオランダやイギリスの船も来て、平戸(長崎県)などで貿易を行った。

東南アジアに移り住む日本人も増え、各地に**日本町**ができた。シャム(今のタイ)の**アユタヤ**や、ルソン島(今のフィリピン)のマニラなどが知られ、アユタヤには山田長政のように、シャムの王に仕えた人物もいた。家康は貿易の利益を重んじ、初めはキリスト教の布教を黙認したため、信者は増えていった。

2 禁教と「鎖国」の体制

鎖国への道

禁教令

キリスト教の信仰を禁じた幕府の命令。

島原・天草一揆

1637年、重い年貢と禁教に苦しんだ人々が起こした一揆。

出島

長崎につくられた人工の島。オランダ商館が置かれた。

キリスト教の信者が団結して、幕府の命令に従わなくなることをおそれた幕府は、**禁教令**を出して信仰を禁じ、宣教師を国外に追放した。信者を見つけ出すため、キリストやマリアの像を踏ませる**絵踏**や、人々に仏教徒であることを寺に証明させる**宗門改**も行った。1624年にはスペイン船の来航を禁じ、1635年には日本人の海外渡航と帰国を禁止し、朱印船貿易は終わった。

1637年、重い年貢とキリスト教の取りしまりに苦しんだ島原(長崎県)と天草(熊本県)の人々が、少年の**天草四郎**(益田時貞)を大将にして**島原・天草一揆**を起こした。幕府は大軍を送ってこれをしずめ、1639年に**ポルトガル**船の来航を禁止した。1641年には平戸のオランダ商館を長崎の**出島**に移し、貿易の相手を、布教をしない**オランダ**と中国に限った。幕府が貿易と海外の情報を管理するこの体制は、のちにいわゆる「**鎖国**」と呼ばれた。

禁教令

島原・天草一揆
(1637年)ポルトガル船の来航
禁止
(1639年)出島にオランダ商館
(1641年)

問いへの答え

幕府は初め朱印船貿易をすすめ、東南アジアには日本町もできた。しかしキリスト教の信者が団結して幕府に従わなくなることをおそれ、禁教令を出して絵踏を行い、日本人の海外渡航も禁じた。島原・天草一揆ののちはポルトガル船の来航を禁じ、貿易の相手を布教をしないオランダと中国に限り、長崎で幕府が貿易と海外の情報を管理するようにした。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

